

龍谷大学 深草キャンパス 灯炬館(とうこかん)



外観

京都市伏見区に本部を置く「龍谷大学」は、1639(寛永16)年に西本願寺境内に設けられた「学寮」が起源。2039年に創立400年を迎えるにあたり、「深草キャンパス施設整備計画」の一環として「灯炬館」を建設した。



1F「る」の森

灯炬館の象徴的なフリースペース「る」の森。「みつける」「かたる」「つながら」「はじまる」などさまざまな意味が込められ、学生たちが思い思いの場所で集い、五感を磨き、創造性を発揮できる場となっている。



1Fだれでもトイレ 入口

1F入口横に設置された「だれでもトイレ」。人が集う共用部の近くに配置されることで、防犯対策にもなっている。また、案内図のライトが、使用状況を示し点灯。遠くからでも認識でき、混雑緩和にも繋がっている。



1Fだれでもトイレ トイレサイン



オリジナルのトイレサインは検討を重ね、シンプルな意匠とすることで視認性に配慮。6ヶ所あるだれでもトイレの扉には、男女の型ではなく便器の形のピクトグラムとし、性別を問わず使用できることを表している。



1Fだれでもトイレ 洗面コーナー

トイレブースエリア前のオープンスペースに洗面コーナーを設置し、手洗いのみの利用などにも配慮している。手洗い後の床への水垂れを抑えるため、洗面器の間にクリーンドライ(ハンドドライヤー)を設けている。



1Fだれでもトイレ スタylingコーナー

スタylingコーナーには、個室感を高めるために仕切りを設置。それぞれに、個別鏡、荷物配慮として2段の棚、フックを設け、さらにヘアアイロンなどの使用に対応できるよう、コンセントも完備している。



1Fだれでもトイレ トイレ通路

外光が入るトイレ通路は、白を基調とした清潔感に満ちた空間。明るいトイレとすることで防犯対策にも繋がっている。さらに、一方通行の動線が、トイレ内でのすれ違いをできるだけ少なくしている。



1Fだれでもトイレ だれでもトイレ①

女性の意見を取り入れた「だれでもトイレ①」の空間は、清潔感のある落ち着いた内装。用足しから手洗い、手の乾燥、身繕いまで一連の動作ができる個室完結型となっている。



1Fだれでもトイレ だれでもトイレ①

大便器は、直線的なフォルムが空間と調和するウォシュレット一体形便器ネオレストASを採用。オート開閉のため便ふたなどの開けっ放しを予防。スタイリッシュなスティックリモコンやチャームボックスも採用している。



1Fだれでもトイレ だれでもトイレ②・③ 入口

車いす使用者とオストメイトに配慮したブースと、乳幼児連れ配慮をしたブースを横並びで設置した「だれでもトイレ②・③」の扉には、内部の設置器具がわかるようにピクトグラムを掲示している。



1Fだれでもトイレ だれでもトイレ②

乳幼児連れに配慮した「だれでもトイレ②」には、ベビーチェアやフィッティングボード、洗面器、クリーンドライを設置。用足しから手洗い、手の乾燥、身繕いまで一連の動作ができる個室完結型となっている。



1Fだれでもトイレ だれでもトイレ③

車いす使用者とオストメイトに配慮した「だれでもトイレ③」は、ブース扉を自動ボタンで開閉できる仕様。介助が必要な方や大型ベッド使用者に配慮し、収納式多目的シートを設置したバリアフリートイレとなっている。

龍谷大学 深草キャンパス 灯炬館(とうこかん)



1F トイレ入口

講義室に挟まれた場所に位置するトイレは、男女別トイレと「だれでもトイレ」が配置されている。



1F 男性トイレ
洗面コーナー

洗面コーナーには、非接触で手洗いができる自動水栓と自動水石けん供給栓を採用。男性の身繕いにも配慮し、入口付近に全身鏡を設置している。



1F 男性トイレ
小便器コーナー

小便器の仕切り板は、プライバシーに配慮して、利用者同士の視線があわないう1800mmの高さで設置。また、手荷物配慮としてフックも用意されている。



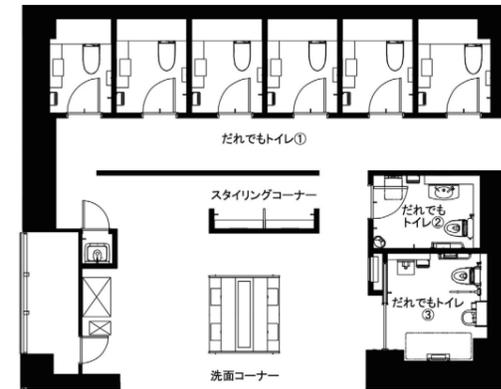
1F 男性トイレ
大便器コーナー

各大便器ブース内に加え、洗面コーナーと通路の奥にも呼出ボタンを設置。ブース扉は20度の角度で止まるようになっており、空室時にもブース内が丸見えにならないように配慮されている。



1F 女性トイレ
洗面コーナー

洗面コーナーには、非接触で手洗いができる自動水栓と自動水石けん供給栓を採用している。



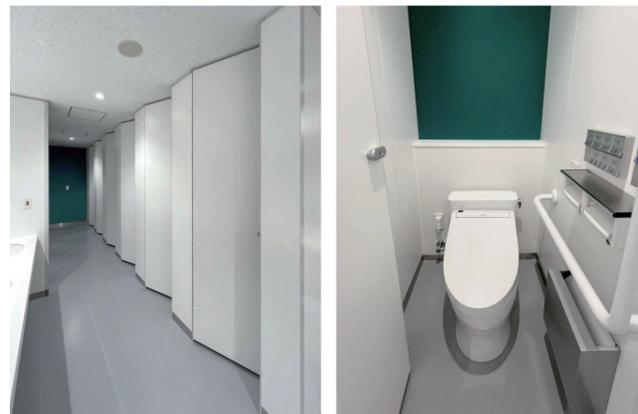
1Fだれでもトイレ図面

キャンパスのシンボリックな建物である灯炬館1Fに「だれでもトイレ」を設置。車いす使用者・オストメイト配慮ブース、乳幼児連れ配慮ブースを1ヶ所ずつ、性別を問わずに利用できるだれでもトイレを6ヶ所配置している。



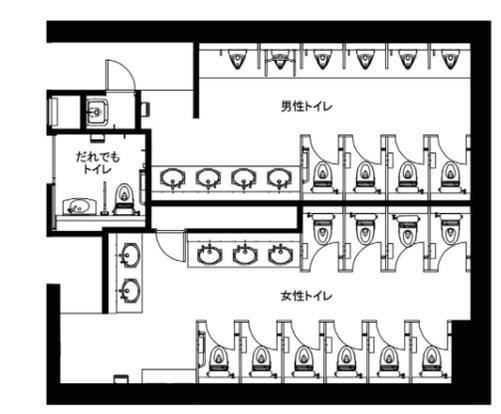
1F 女性トイレ
スタイリングコーナー

スタイリングコーナーの鏡は、個別鏡としプライバシーに配慮。また、ヘアアイロンなどが使用できるコンセントや、手荷物配慮として2段の棚を設置。男性トイレと同様に、全身鏡を設置し身繕い配慮がなされている。



1F 女性トイレ
大便器コーナー

女性トイレの各大便器ブースと洗面コーナー、通路の奥にも呼出ボタンを設置。また、使用中の姿勢の保持や、立ち座りをサポートするL型手すりを1ヶ所のみ設置している。



1F トイレ図面

1Fの講義室に挟まれた場所に位置するトイレは、講義合間の集中利用に対応する器具数を確保した男女別トイレと、「だれでもトイレ」が配置されている。

水まわりの特長

建物の特徴

「龍谷大学」は、1639(寛永16)年に西本願寺境内に設けられた「学寮」を起源とし、2039年に創立400周年を迎えることから、2022年度より「深草キャンパス施設整備計画」を推進。「深草を森にする」をコンセプトに、学生たちが行き来する北エリアに「灯炬館」を建設。館内は、講義室や研究プロジェクト室などで構成。学生のみならず教職員や地域社会が一体となる、これまでにない「テラスタイプ」のシンボリックな建物。1F入口を入るとすぐに広がる「る」の森というフリースペースは、「みつげる」「かたる」「つながる」「はじまる」などの意味が込められ、学生たちが思い思いの場所で集い、五感を磨き、創造性を発揮できるよう緑と家具が配置され、自然の中で過ごしているかのような空間となっている。

トイレの特長

新棟構想の段階から、障がい学生支援室・宗教部・学生団体などと議論を行い、さまざまな利用者が使いやすいトイレについて妥協せず検討を重ね、計画を遂行した。シンボリックな空間である「る」の森内にある「だれでもトイレ」は、車いす使用者・オストメイト配慮ブース、乳幼児連れ配慮ブースを1ヶ所ずつ、性別を問わずに利用できるだれでもトイレを6ヶ所設置。さらに、女性目線を取り入れた高級感のある設えとし、清掃は1日2回行われるなど、明るく清潔でみんなが行きたくするトイレ空間となっている。また、講義室近くにあるトイレには、男性トイレ、女性トイレ、だれでもトイレを設置。休憩時間などに利用が集中することなどから、器具数や空間の広さを考慮して設計している。

建築概要

名称	龍谷大学 深草キャンパス 灯炬館(とうこかん)
所在地	京都市伏見区深草塚本町67
施主	学校法人 龍谷大学
設計	株式会社 アーキシップスタジオ+高木章寛建築設計事務所
施工	鹿島建設株式会社
竣工年月	2025年3月
敷地面積	58,125.10㎡
建築面積	2,722.46㎡
延床面積	8,134.30㎡
構造・階数	鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造・地上5階、地下1階

おもなTOTO使用機器

- ウォシュレット一体形便器:ネオレストAS:CES9720W
- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AU
- 棚付二連紙巻器:YH702
- 音姫(トイレ用擬音装置):YES400DR
- チャームボックス(汚物入れ):YKB104
- 自動洗浄小便器:UFS900JS
- ツインデッキ(ハンドドライヤーセットプラン):MDWC
- 洗面器:L531
- 壁掛ハイバック洗面器:LSA125CC
- 壁掛洗面器:L270CM
- 手洗器:L725
- 台付自動水栓:TLE35SM1A、TLE33SM3A、TLE26SS1A
- 自動水石けん供給栓:TLK07S04JA
- クリーンドライ(ハンドドライヤー):TYC420W
- コンパクトオストメイトバック:UAS81RDBINW
- 収納式多目的シート:EWC520ARN
- ベビーチェア:YKA16S
- パブリック用手すり:T112CL10、T112CU22、T112HK7R